

## 第10回県政ひざづめ談議結果概要

○開催日時：平成21年9月16日 14：30～

○開催場所：湯之奥金山博物館

〔知事〕

お待たせしました。今日はどうもありがとうございます。

〔司会者〕

それでは大変お待たせをいたしました。

ただいまから、『県政ひざづめ談議』を始めさせていただきます。

まず始めに横内知事からあいさつをお願いします。

〔知事〕

皆さんこんにちは。

今日は『県政ひざづめ談議』ということで、それぞれお忙しい中をお集まりをいただきましてありがとうございます。この下部温泉で中心的に経営をして活躍しておられる方々ばかりでありまして、心から御礼を申し上げます。

下部温泉と言えば、言うまでもなく本県で屈指の、一番歴史がある、また一番由緒のある温泉であります。しかしながら、このところ観光客が低迷をしているという状況であります。何と言っても信玄公以来の隠し湯と言われた名湯、とりわけ効能が非常にあるということで評判の名湯ですが、近頃、観光客が減っているというのは大変に残念に思っているわけでありまして。

最近是这样いった、いわゆる湯治場から始まった温泉というのも全国でいろんな活性化の試みがなされまして、かなりの成功例が出てきているわけでありまして。山梨県でも温泉と言いますと、例えば20年ぐらい前はそんな名前もなかった河口湖温泉なんか非常に活況を呈しておりますし、石和温泉も一時低迷をいたしましたけれども、このところ大分元気になってきて、観光客も戻ってきている状況であります。そういう中で、何といたってもこの由緒のある下部温泉が活性化をしてもらわないと、私どもとしてはどうも何となく落ち着かないというか、我慢のならないところであります。是非活性化をしていかなければならないと県としては思っているわけでありまして。とりわけ中部横断自動車道が全線開通に向けて工事が始まりまして、8年後には開通をするということに大体なっております。民主党政権になりましたけれども、民主党の先生方もこの道路は必要な道路だから造ると、みんな口をそろえて言っていたいておりますから、間違いなく8年後には完成をするというふうに思います。8年後に中部横断道ができればお客さんが増えるだろうと思っておりますけれども、しかしこれは油断ならないわけでごさいます。ただ口を開けて待っているだけではお客さんは来ないわけでありまして。20年、30年前のように日本が人口がどんどん増えて、しかも人口構成が若い時には何もしなかったってお客さんが来たわけですけれども、人口が減ってきているという状況の中では、やっぱりよほどの努力をし

てお客さんを呼び込む、それだけの魅力をつくるということをしていかないと、なかなかお客さんは来てくれないという状況でありまして、中部横断道の効果を最大限に高めていくためにも、この下部温泉の活性化、魅力の向上というものが必要とされているということだと思います。

幸い、皆様方におかれても県一同一緒になって活性化のためのいろんな検討をしていただいて、熱心に取り組んでいただいているというふうに聞いておりまして、大変うれしく思っているところであります。いろんな課題がありますけれども、8年というのはこれはすぐのことでありまして、今からやっついていかないと間に合わないわけでありまして、できるだけ早く活性化のためにどういう行動をしていくのかということ相互にコンセンサスを得て、そして行動に移してほしいと思います。皆様方のそういった活動に対しては、県も町も最大限の協力をしていきたいと思っております。

本日はそのような問題意識の中で、一つ下部温泉の活性化策ということで、皆さん方が日頃お考えになっていることをざっくばらんに、どんなことでも結構でありますから、お気付きのことをお話いただきたいというふうに思うわけでありまして。今日はよろしく願います。

〔司会者〕

それでは、ここで本日同席をしております県と町の担当者を紹介させていただきます。

広域観光ですとか、二地域居住の推進など、県の観光振興を進めております小林観光振興課長です。

〔小林 観光振興課長〕

小林でございます。よろしくお願いいたします。

〔司会者〕

もう紹介するまでもないかもしれませんが、身延町の熊谷観光課長です。

〔熊谷 身延町観光課長〕

熊谷です。よろしくお願いいたします。

〔司会者〕

それでは『ひざづめ談議』始めたいと思います。よろしくお願いいたします。

〔参加者〕

私から3点ほどお話をさせていただいて、そのあとワーキンググループのメンバーから具体的な話をさせていただきます。

1点目は、先ほども司会者から広域観光というお話が出ましたんですけど、昨年、富士河口湖町のNPOの富士山地域創造との連携の体制が一応整いまして、観光協会ならびに観光センター、それから商工会観光課と、色々と事あるごとにお話をして協力することはしておるような状況でございますが、この関係を推進強化と言いますか、これを是非行政

が側面的にバックアップしていただければ大変ありがたいと思っております。

それから第2点が、本栖湖、それから富士五湖に年間1,400万人ぐらいの観光客が来ると。300号線をいかにして利用するか。いわゆる車が通りやすい道路改良の問題でございます。先ほど知事さんのお話しの中で中部横断道について明るい見通しを持ちましたんですけど、8年後の開通に向けてのアクセスですね。そういう問題と合わせて、矢木沢に身延（仮称）インターという名前が出ておりますが、これを町を通じて我々はお願いをしておりますけど、そのサインを『下部温泉』あるいは『下部温泉郷』というような是非看板にさせていただきたいということです。

それからもう1点、これ非常に私どもは深刻に考えているんですけど、今旧下部町北川に産業廃棄物の処理場の建設の話がずっとあるわけでありまして、観光地としてこれは非常にマイナス的要素が大きいと。安全性云々もさることながら、もしあれが仕上がって稼働しますと、交通量だけでも大変なものになろうというような予測を持っておりますので、観光客に与える影響も多々あるかと思えます。是非その点を知事さんの、知事選に出る前に明確に判定をとというようなお話をお聞きしておりますので、是非県としてもそういう点をよろしくご配慮をお願いしたいということでございます。

以上3点だけよろしく申し上げます。

〔知事〕

富士山地域創造との連携というのは大変いいことだなと思えますよね。向こうが非常に観光地として発展しているわけでありまして、しかも距離的には本栖湖から20分か25分ですから、これは周遊観光とか、そういうような形で連携していくことは非常に大事なことだと思います。そのためにも、この300号を中部横断道が開通するまでには改良していかなければいけないと。あそこには2箇所ピンカーブがありまして、大型バスがスムーズにすれ違えないわけですね。したがって、大型観光バスのルートになかなかなりにくいということがありまして、これは中部横断道ができるまでに改修をするという方針を検討して決めておりますので、そのようにしていきたいというふうに思っております。

インターチェンジの名称というのは、地元がどう考えるか、そして地元が、この場合には国土交通省に要望することになるわけです。一方的に国土交通省がどかんと決める、県がどかんと決めるというものじゃなくて、地元の市町村がこういう名前にしてもらいたいと、こう言って持ち上げてくるのが通常でありまして、もちろん『下部温泉郷インターチェンジ』でも、『下部温泉インターチェンジ』でもいいと思えますが、地元がそれで納得するかどうか、よく一つ身延町でその辺は話をコンセンサスを得るように努力をしてもらいたいと思えます。

産廃の問題はおっしゃるとおりでありまして、私もああいう所にできるのは好ましいことではないというふうに思っております。現在裁判をやっているところでありまして、裁判の結果がどうなるかということでもありますけれども、来年ぐらいには結論が出てくるんでしょうかね。裁判所が客観公平な判断を下すこととなります。

〔参加者〕

温泉の湯量の増加の件で知事さんをお願いしたいんですけども、今現在、町のボーリン

グした奥の湯高温源泉があります。県の湯量の規制は今毎分200リットルと定められておりますが、町の温泉もやはり毎分200リットルで揚げていただいております。身延町ではボーリングする前とボーリングした後に既存の源泉を持っている旅館また組合の湯量の調査を行っていて、今年で6年目になると思いますが、別に湯量等異常はないということで、中央温泉研究所ですか、調査しているところでございます。また、この町の温泉、実際旅館等29軒加入しているわけでございますが、毎分200リットルにすれば1軒あたり毎分6リットルですね、これが男女別に浴槽になりますと一つの浴槽が大体3リットルと。まあ大変少ない量になってしまうわけでありまして。実際、この下部温泉の近くには別に大きな温泉もあるわけでもないし、また町で掘っていただきました、ボーリングしていただきました奥の湯高温源泉もほぼ100%を下部の旅館、ホテルで使用しているわけで、そういう面から見て県の今の200リットルという規制を、勝手ではあります、下部特別区域みたいな、そういう感じにして、200リットルを300ないし400ぐらいに増やしていただければ、各旅館も足湯等にも利用できるわけでございます。そうすることによって、やはり観光、また地域の活性化が図れるんじゃないかと思っておりますので、是非一つ県の200リットルという規制を下部温泉に関しては、勝手ではあります、300から400ぐらいに増量を是非ともお願いしたいわけでございます。

〔知事〕

300リットル、400リットルになっても影響がないということであれば、これはいいんですよ。だから要は、科学的に大丈夫かどうかということだと思っております。温泉審議会で決めたわけでしょうけども、決める前に色々という温泉研究所とか、そういう所で分析してもらったら、まあ200リットルぐらいがいいところじゃないかと。それ以上汲むと、やっぱり源泉が枯渇するとか、いろんな影響が出てくる恐れがあるということで、じゃあ200リットルと、こうしているわけですね。

〔参加者〕

実際変化があるかどうかを身延町で調査をしていただいているんですけど、その結果ボーリングする前と、またボーリングした後の既存の源泉を持っている所の湯量は影響なしと。そういう結果が出ているようです。

〔知事〕

したがって、当初、あれは何年ぐらい前でしょうか、そういう中央温泉研究所に委託して調査した・・・。

〔参加者〕

6年ぐらい・・・。

〔知事〕

6年前。その調査結果というのが6年経って余り影響がないということで、どうなんだと、こういうことだと思いますね。これは県が担当しているんですよ、検討させますけ

どね、まあ要は影響が出なきゃいいということなんですよ。影響が出ちゃったら、これは大変だということですから、ある一定の安全度を見ながら、影響が出ない範囲というのはどの範囲かなということだと思いますよね。

〔参加者〕

今日たまたま地質学の田中先生とずっとお昼まで一緒におりまして、それでちょっと私その話を聞いたら、「それ全然影響ないよ」と。専門的な立場からもそんな話をされていました。

〔知事〕

どのぐらいなら大丈夫だと、田中さんは。

〔参加者〕

400でも大丈夫だよと。最初の頃400ですね。

〔知事〕

なるほど。分かりました。まあこれは検討してみたいと思います。

〔参加者〕

この下部の温泉場は狭い、この写真にもあるように、もしここで災害があれば、もうそこから上の人たちがどんなことになるか分からない。だから、まず第一に安全ということでは是非迂回路を整備してもらいたい。この下部の区の念願でございます。色々長いこと区としてはやっているんだけど、まあ話がまとまらないとか、知事さんをご存知のように、公共事業削減の時で大変だと思います。もう最盛期より半分になっています。これがまた民主党政権でもってああいうことになると、もっと減ると思います。だからできるかできるか、本当はとっくにできるべきものだったけど……。是非知事さん、できるだけお願いしたいと思います。

〔知事〕

地元がまとまれば県はやる気はあるんです。どのぐらい前だっけ……。

〔参加者〕

10年ぐらい前です。

〔知事〕

10年ぐらい前にいろんな絵を描いたと思うんですね。しかし何か温泉に影響するとか色々あって、地元がどうしてもまとまらないうと、こういうことで県の土木部、今県土整備部というんですが、さじを投げているわけですよ。あそこはどうせまとまらんと。だから地元で、「いや、いいよ」と一致して、そういう迂回路、川のおそらく向こうになるんでしょうかね、そういうものを是非頼む、と地域の皆さんが一致してそうであれば、そし

てまた町も当然それは是非やろうじゃないかということであれば、それはまた考える余地はあると思いますが、どうもなかなか難しくてですね、まとまらないという話を聞いて・

〔参加者〕

迂回路については、30年ぐらい前、前の前の区長の時に会を作ってがんばったんですが、隧道をとという話をしたら、温泉に影響が出ると反対がありました。じゃあ、ふるさと林道でやったらどうかということで町会議員に話して、そして町でも予算まで組んだんです。そしたらある人の反対でいっぺんにだめになっちゃったというわけです。はっきり言って、みんなが協力して進めてお願いしていかなければだめだということなんですよ。

〔知事〕

まあ100%一致しなくてもいいから、おおかた、おおかた、9割方みんな賛成ですよ、是非頼むと。町議会も一致してこれをやるということで、やってもらいたいと。ふるさと林道でもいいし、隧道をまた造るでもいいですけども、ということであれば・・・。

〔参加者〕

まあ隧道は無理だと思います。

〔知事〕

そうですね。ふるさと林道というのは、川を渡って向こうの山がありますから、山沿いに行くんですか。

〔参加者〕

林道の時には、その山を越していけば・・・。

〔知事〕

山を越してというと、あの川の反対側のあの山を上っていくわけですか。

〔参加者〕

ええ反対の、神社へ、いわゆる一番横のほうの山を越して・・・。県道の場合は勾配に問題があるから山を越すわけにいかんけど、林道は勾配はきつなくてもいいです。今は車の性能がいいから、勾配なんかちょっとあっても大丈夫ってわけだ。それと同時に、その時に県でも、土木でも一応設計の試算はしてくれたんです。そしたらその時のお金が10億掛かると、10億。ところが林道でもって、ふるさと林道でやるとして、林道で話をしたら6億でできるんです、同じものが。なぜかというと、林道の場合は土地を買収しないです。寄附でやってくれる。県道の場合は買収してやらなきゃならないから10億、同じものでも10億掛かるというわけです。そしてその時の区長が、地主も全部その会の役員にして、地主も全部承諾したんです。

[知事]

承諾したんですか。それでもだめだったんですか。

[参加者]

そしてその時にその反対がなければそれが通るばかりだったんです。そうすればもうとっくに仕上がったんですよ。

[知事]

もう一回リターンマッチやるですね。リターンマッチをやるということです。

[参加者]

そんなところですが、よろしくお願いします。

[参加者]

いつもいろんな面でご厄介になっています。

今、区長が迂回路の話をしましたけど、これは私は常々思っているのは、今県で非常に林道にも力を入れていただいて、身延猪頭林道も毎年整備をしてもらっています。あれは観光資源としては非常に大きな、将来的価値があるものだと思います。

もう一つ、今もう後2、3年で完成になるんですけど三石山林道。これも非常に観光資源として活用できる林道だなと思うんですが、現状のこの温泉街の道路幅員等ではせっかく県で大きな投資をしていただいてもそれが十分生きてこない。そういう面から言っても是非その迂回路というものはやってほしいなというのが、これ本当に長い間の願いなんです。

[知事]

あの三石山林道の起点がこの道路になるんですか。これを上っていくんですか・・・。

[参加者]

温泉場過ぎて奥へ・・・。

[知事]

あの道路ですか。なるほどね。

[参加者]

それがここまで延びてくれると・・・。

[参加者]

それでここから出発して3キロぐらいの所にちょうど富士川の上に出るんですよ。当時峡南地域振興局の局長さんが大変関心を持っていただきまして、そこに展望台も設けてくれたんですよ、眺望がいいということで。そういう面からも非常に観光資源として・・・。

〔知事〕

それは三石山林道・・・。

〔参加者〕

三石山林道です。その近くに、前に企業局が風力発電ということで調査をされた経緯もありまして、そんなこともありますから迂回路は県で投資していただいている林道活用の面からも非常に生きてくるんじゃないかと。

〔知事〕

身延町で議会、それから町長が、是非この下部温泉の安全性それから観光振興の観点から道路のネットワークをやってもらいたいということはコンセンサスは得られるんですか。

〔参加者〕

それは区長も言いましたけど、地元でそれなりにきちっと対応すれば、当然行政はやってくれることは確かだと思います。私、前にも知事さんに直接お願いした時にも、地元は大丈夫ですかということと言われましたけど、それは私たちが努力をする問題だと思っています。

〔知事〕

そうですか。まあ我々も検討してみますが、土木に聞いてみると、もう本当にさじを投げて、あそこは県の中でも一番難しい所だから、あれはもうとてもじゃないやとみんな言ってますね。

〔参加者〕

土木ではもう有名になってね、さじを投げています。

〔参加者〕

以前、土木の職員がこのことにおいでいただいたことがあるんですよ。そしてちゃんとした規格の県道は無理だよと言われました。それは幅員とか・・・。

〔知事〕

今1.5車線道路なんて言って、そんな規格道路じゃなくてね、普通の一車線で車がどうにかすれ違える程度の、そういうのもいいんですよ。こう回せばいいだからね。そうやって上のほうにも駐車場を作ったりとか・・・。

〔参加者〕

是非一度知事さんね、この湯之奥林道の眺望をこの紅葉の時期にご覧になって下さい。富士山の眺めといたら、それはもうほかには負けないぐらい・・・。

〔知事〕

湯之奥というのは門西家に行く道ですか。

〔参加者〕

門西家よりまだずっと奥です。

〔知事〕

じゃあ、毛無山に上っていく道ですか。

〔参加者〕

その林道の途中に毛無山の登山道がある。一説によると、昇仙峡より紅葉がいいというぐらい・・・。

〔知事〕

そうですね。じゃあ一回行ってみるか、紅葉ね。

〔参加者〕

そのような紅葉とか見所などをこのDVDに納めてありますので、是非ご覧いただければと思います。よろしくお願いします。

合併後の観光振興策を町の観光課と商工会で考えまして、今まで行政も商工会も観光団体もいろんな計画を持っていたんですけど、何でそれが実現できないのかという、計画通りに行っていればもうとっくに下部温泉は活性化しているのにという疑問がありましたものですから、じゃあそれを1年365日観光振興だけのことをやる専門の職員がいる組織を立ち上げましょうと。行政、商工会、観光団体が集まって組織してやりましょうということで、一昨年NPOを立ち上げまして、観光ビジョンを実現するために鋭意努力させていただいているところです。

〔知事〕

そうですね。それは是非がんばってもらいたいですね。まあ大事ですよ。この地域の魅力を地域でつくって発信するというのは、意外と都会に受けるんですよ。JTBというでかい会社がありますがね。あそこの社長さん、田川さんという人に会ったら、あの人もよく田舎に行くんだそうですね。行ったらその田舎の人たちに「あんた方、何をして楽しんでいるんですか」と聞くんだそうですね。そうすると田舎の人たちが、わしらこうこうやってやっていますと。それをじゃあ観光資源にしましょうと。こうやって大体当たると言いますね。やっぱり田舎の人が面白いことは都会の人も面白いんですよ。だから地域の色々な、皆さんがいいなと思うものを企画をして出せば、必ずこれは受けるはずだと思いますね。

〔参加者〕

特に当町には本栖湖もございますし、千円札のビューポイントもございますので、是非ほかの湖が反対しても世界遺産には本栖湖を入れていただいで……。(笑)

[知事]

そうですね。がんばってもらいたいですね。

[参加者]

下部温泉、このひなびた温泉地で自分たちでもどんなものが財産としてあるかと考えると、やっぱり自然ということになるんです。また、下水道のほうも工事が進んでいるわけですが、それが完成すれば大分水のほうも、今も下部の水はきれいだと思いますが、それ以上にきれいになると思います。ただ下部は川が深くて、道路からなかなか川に下りれないんですね。観光客のお客さんも上から見ているだけなので、是非川に下りれるような階段というか、そういうものを作っていただきたいと思います。

[知事]

それはそうですね。水辺の散策路ですね。

[参加者]

そうすれば川に下りてお客様も遊べると思うんですけども、そういうのが一番の観光資源かなとも思うんですけども。

[知事]

まあそれは県がやるのか町がやるかはともかくとして、それはできますよね。ただ問題は、昇仙峡でも同じ話があって、昇仙峡の人たちがみんな一つ川の中にちょっとした散策路を作ってもらって歩けるようにしようやと、これはいいこんだと、こうやって始めたはいいけど、いざ、じゃあどこに作ればと言って、なかなかやっぱり、それぞれみんな旅館があって、俺の横から行くようにしてくれと。ここを飛ばしたら困るからと、なかなかまとまらないんですよ。

[参加者]

下部も場所的には同じだと思います。やっぱりなかなかないんですよ。でもそう言ったら進まないんで、できるところからでも結構ですので、まあそれも地元と話をしながらですね、そういうことから始めていただきたいと思っています。

[知事]

そうですね。水辺の散策路というのはいいですよね。

[参加者]

それとあと、護岸のことなんですけども、石積みは今からはできれば自然石というんですか、ああいうもので積んでいただいで、ただ見ても情緒があるような感じのものにして

いただければと思うんですけど。

[知事]

あのコンクリートで固めてある所がありますかね。

[参加者]

あります。

[知事]

そうですね。そういうのはうまくないよね。おっしゃるとおりですね。なるほど。分かりました。

[参加者]

その河川に、結構大きい雑木が出ているんですけど、増水などして、その木が流れ出した場合大変な災害になると思うんです。それで私たちも協力しますので、県のほうでも一つその雑木を撤去してほしいと・・・。

[知事]

雑木がかなりたまっているような所があるんですか。

[参加者]

この正面の河川なんかは特に・・・。

[知事]

それはずっとたまった状態で、もう何年もあるということですか。

[参加者]

もうどんどん木が大きくなって、その木を切らないと・・・。

[知事]

ああ、そうかそうか。木を切るということだね、川の中のね。

川の中の雑木を切ってくれという話はあっちこっちでありましてね。まあ順次やっているけど、今のところは富士川の上流とか笛吹川とか、大きい所をやっているんですよね。追々それはやってくると思いますからね。

[参加者]

何年後にならないように、一つ・・・。

[知事]

ここは県の管理だよね。

[参加者]

県です。

[参加者]

よろしいですか。今ちょうど河川のほうの話があったんですけど、当然川に下りられるというのは、この温泉街の中ではきれいな水ですから一つの宝だと思っているんですが、上から見た場合でも河川というか、この冊子を見ていただくと一番分かりやすいと思うんですが、もう川に全面にコンクリートを敷き詰められて、あるいは上流から流れてきたものもなかなか撤去ができないような状況なんですね。川に下りると言っても、実際に温泉街に行くと川に砂防堰堤が3つほどあるんですね。人も魚もなかなか上流に向かって歩いて行くこともできないということで、その辺のところを少し考えていただけるとありがたいかなと思います。

[知事]

砂防ダム、砂防の堰堤があって人も上れないわけですね。

[参加者]

そうですね。今この写真にあるのも、もう人も上れないような状況で・・・。

[知事]

まあそうでしょうね、これは。下は床止工ができていますね。まあ確かにこういうことだと難しいね。まあだからこっちのほうの左側のほうに人が歩けるような遊歩道ができるかどうかですね。

[参加者]

そうになると釣りをするにもやっぱり移動がしやすいのかなと思うんです。魚もそのエリアでしか泳いでいないので・・・。

[知事]

魚は確かに上れないよね。魚は何かいいのがいるんですか。

[参加者]

いや、釣っているのはヤマメ・・・。

[知事]

そうですね。放流しているんですか。

[参加者]

放流しています。

[知事]

まあ貴重なものであれば、魚道を作るんですけどね。魚道を作るほどの川でもないよね。

[参加者]

魚道は無理ですね。まだこれは低いほうで、この上にあるのは、もっと高いだから。

[知事]

そうですか。なるほどね。魚道はともかくとしても、遊歩道を作れば良いということですよ。

[参加者]

川へ下りる道をね。

昔はもっと入れる所があったんだけど段々少なくなっちゃってね。入れる所は2、3箇所しかないな・・・。

[参加者]

ちょっと話題を変えますけどいいですか。

大変難しい問題だと思うんですけどね、かつて私も県の方をお願いしたことがあるんですが、温泉街の電線の地中化をしていただけないかと。

[知事]

電線の地中化ね。これは必要なことですよ。

[参加者]

災害時に、あっちゃならないんですけど、消防本部のはしご車も使えないような状態じゃ困りますから。

[知事]

それは全くその通りでね、電線の地中化は、要するに街並み整備の一環としてやるわけですよ。今考えているのは、まあこれは提示をしているんですけども、身延山の門内のあの道ですよ。川沿いに一つ道がありますね。あれを整備をすると同時に、門内のあの道を少し風情のある道に整備しようと、石畳でね。それと合わせて電柱なんか廃して電線を地中化しようという計画を地元の人たちに投げ掛けていますけどね。そういうことですよね。それはもちろんおっしゃるように災害対策としても大事ですし、やっぱり町の風情ですね、温泉街の風情、そういうものを作らなければいけないですよ。そのためには必要なことですね。

[参加者]

そういう面では是非行政の大きな力をいただかないと実現が不可能ですから、是非知事

さんの頭に入れておいていただきたいと思います。

〔知事〕

そうですね、分かりました。計画を作っていくということですね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

観光の部分で行政の力をもう少しこちらのほうに傾けていただきたいと思いますということなんです。JRにしても何にしても結構甲府市、まあ自分が感じるのは甲府市、あそこを中心にどちらかというとJR東日本のほうを通じて観光とか、そういった情報が出ているんですが、どちらかというとこの下部というところとJR東海のほうの主になっているんですね。だからもう少し下部をアピールできるようなことをしてもらえるとありがたいなと思うんですけど。

〔知事〕

去年やったdestinationキャンペーン、これはJR6社と一緒にやっていますから、そういう差はないんですよ。来年4月は今度JR東日本とやるから、それは確かに東海のほうについては手薄になるかもしれませんが、まあJRも観光客といたってそこにだけ行くわけじゃないですからね。魅力があるものであればもちろん取り上げると思うんですね。そこは県ももちろん注意をしていかなきゃいかんと思いますが、要はお客さん呼べるなというものがあるかどうかですよ。まあ身延山はあるからね。

〔参加者〕

一つよろしいですか。

やっぱり全国へどうやってこの地域を発信していかなければいかんか、ということですね。今知事さんが言われたように身延山もあれば、下部温泉もいい温泉地で、やっぱり知名度はかなり高い。ですから、そういう地域資源をどうやってまとめていくか。また、日本の歴史の最初と言うんですかね、砂金に代わる金の入った石、鉱石から金を採った日本で最初の鉱山がこの甲斐金山なんですね。それで国の史跡になっているんです。あるいは早川町のフォッサマグナですね、そういういろんな文化遺産とか自然遺産をうまく活用しながら、この下部温泉郷あるいは身延町、あるいは峡南というものをうまく包み込んで、全国に発信していくことが大切だと思います。

やはりパンフレットとかポスターというのは限られた人しか見ないですね。ですから基本とすれば山梨県そのものを、全国紙の全面広告なんかで山梨県のイメージ広告ですね。山梨県全体の魅力を日常的に発信するような、山梨県というのはすごいじゃないかということも潜在的に力強く訴える、大きい広告であったり小さい広告であったり、あるいはテレビであったり、そういうものにある程度集中して発信していくような・・・そしてその中に入ってみたら各地に、「おっ、すごいものがあるじゃないか」と、「身延、下部温泉もいいぞ」というようなことに繋げていってもらいたいと思うんですね。もちろん地域は地域の努力をして、本当に、真剣に取り組んでいかないと沈んじゃうと思うんです。もう

本当に真剣に、今だったらどうするかという次元に立ってやっていく、そういうことが必要だと思います。さっきも言ったように、県自身のイメージをもっと上げてもらって・・・。山梨にはいろんなものがありますから、総合的にまんべんなく全国にPRできるような方向を一つ是非検討していただければというように思っています。

〔知事〕

おっしゃるとおり大事なことだと思いますね。去年はデスティネーションキャンペーンというのをやって、「週末は山梨にいます。」と。今東京でも割と「週末は山梨にいます。」というのを知っている人が多いようでして、割とうまいキャッチフレーズですよ。中年あるいは、それよりちょっと上ぐらいのご夫婦をターゲットにしたキャンペーンだったわけですけども、今年の10月からは別の、今度は「私の人生に、ビタミンやまなし」といったキャッチフレーズで、アラサー、アラフォーを対象にやろうと思っています。例えばADトレインといって中央線の10両編成の車両の外も内も全部山梨県の広告を載せた電車を走らせるとか、まあ各駅で色々なイベントをやるとかというようなことをこの10月からやろうとしているんですね。

若い女性というのは非常に口コミによる宣伝力というのが強いということですね、それからかなり購買意欲があるんですね。だから例えば温泉なんかという非常に今若い女性が好むんですね。この下部温泉だってそれなりの風情を持ったものであれば女性が喜んで来ますよ。そういうキャンペーンをやろうとしているんです。しかし、まあそうは言っても全国紙というのは金が掛かってどうにも・・・。

〔小林 観光振興課長〕

大阪の読売新聞と名古屋の中京新聞一面を買い取りまして、山梨県を掲載させていただいております。

〔知事〕

まあまあそういうこともやったりしているわけですが、おっしゃるようにそういう山梨のイメージアップのための努力というのは大変なことだと思います。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

この前もグループの中で話をしたんですけど、目標がないとやっぱり続けていけないというか・・・。下部温泉がこういう形になったらいいなと、まあ半分夢なんですけど、そういったものを作るということで話をしまして、先ほど話されていた迂回路も当然その観光客を誘致する中での一つのこれは大切なファクターだし、河川の遊歩道ですとか、そういったものは当然観光もそうですけど、これだけ住宅地が密集した中で消防の水利の確保ということでも当然必要だという話もその時にしたんです。ただ今こういう景気の中、下部のほとんどの旅館というのが個人事業主が、小規模のところが大体ほとんどでして、ダイレクトに、景気の悪いのをもろに受けいて、従業員の問題ですとか、その人材の確保という部分でもなかなか難しいと。先ほども、そのアラサー、アラフォーという

お客様を今後誘致するというのであれば、当然中の施設ですとか、そういったものも少し手を加えていかなければいけない。ただやっぱりこういう状況ですので、大規模な設備投資というものは、なかなか今後の見通しの中でも難しい。今、国のほうの景気対策のほうでいろんな形の支援を出していただいているんですけども、なかなかその部分の審査ですとか、そういった部分にうまく当てはまらないようなことがあって、経営的にかなり苦しいところというのも当然出てきています。例えばトイレをウォシュレットに変えるとか、ちょっとしたそういうことでもお客様の反応というのは違ってきますので、そういう小口の設備投資ができるような、何か簡単なそういう融資制度のようなものができれば・・・。受け入れ体制として、十分にお客様に満足してお帰りいただけるということを整えるために最低限のものは揃えておきたいという思いがありますので、そういう何か施策を考えていただければ・・・。

〔知事〕

それはそのとおりなんです。でかく建て替えてとかね、そんなことできるわけがないんであって、トイレを直したり、ちょっとした模様替えをしたりとか、ちょっとした模様替えですいぶんイメージ変わりますからね。それでいいと思うんですよ。清潔になる、まず清潔にすることですよ。それは色々制度があると思いますけどね。一つ国の制度は昔の国民金融公庫というやつ。大体100万、200万、300万。今は政策金融公庫となってますけどね。それから県の商工振興資金、あるでしょう。

〔小林 観光振興課長〕

商工振興資金で、観光施設整備のメニューがありますので・・・。

〔司会者〕

それはよく調べて情報提供させていただきます。

〔参加者〕

切実な問題なんです。

〔知事〕

いや、だけど大事なことだと思うんですね。余りでかでかじゃなくてね、本当に小さい改修を積み重ねていくことは大事ですよ。

いかがでしょうか。

〔参加者〕

先ほど中部横断道とかの話が出ていたんですけど、知事さん、今日甲府のほうから来られたと思うんですけど、52号線の工事がどうしても多すぎるんです。期間が長くて、来る方が「渋滞にはまっちゃって」という話が多くて。自分もそうなんですけど、途中までは52号もあるし迂回路もあるんですけど、峡南橋辺りからどうしても山道を走らなければならないんです。そうするとあの区間が事故があったりするとものすごい渋滞も多いし、

以前一宮まで通っていたことがあるんですけど、52号のちょうど今の身延町の役場の辺で事故があると、300号に回ると一宮まで4時間掛かったことがあるんです、事故渋滞で。52号の工事、あれをもう少し期間を短くするとか・・・。

〔知事〕

確かに。あの52号線というのは、平均的な道路の通行止めの回数の10倍ぐらい回数が多いですよ。一つはまず大雨で止まりますよね。それからそういう道路工事であったり、それから事故で止まったりですね。しかし道路防災工事というやつは、地盤の悪いところを改修することが多いわけですから、どうしても続いていくんですね。だから工事はやっぱりこれからも続くでしょうね。一方で西八代の循環道があったり、中部横断道ができればね、かなり楽になっていくだろうと思いますが・・・。

〔参加者〕

今も2箇所工事がありましてね、ちょっと期間が長くて・・・。

〔知事〕

掛けている額は膨大なものなんです。それだけ地盤が悪いんですね、この道路は。はい、どうぞ。

〔参加者〕

本栖湖の世界遺産の関係で、今強力に進めております。千円札などには、本栖湖から撮した富士山が印刷されていますが、ある意味一つ山梨県の景勝地としてもそういう場所があるということで、小道なんかもあるんですけども、もうちょっと遊歩道を整備していただくと、来たお客さんが少し散策しながら、実際に撮影したポイントの所で富士山を眺めるということができるんですが・・・。保安林だとか県有林、恩賜林という、あるいは環境省の管轄というようなことがあってなかなか整備が難しいかもしれませんが、ある意味公的なところでそういう動きをしていただくと・・・。自然をただ眺めるだけでなく、何か少し自然の中に入っているということができていくと、本栖湖なんか人も動きやすく、居やすくなると思うので・・・。

〔知事〕

最近エコツーリズムとか、そういう形ですぐいぶん歩く人が増えてきましたからね。そういう意味じゃ本栖湖周辺なんか非常にいいですよ。まあ、千円札の富士山は岡田紅陽先生の写真なんです、あれちょっと古いというか、大分前の写真ですからちょっと変わったんでしょう、多分ね。

はい、どうぞ。

〔参加者〕

ここはどっちから来るにしても不便な所です。特に神奈川県の方からこっちに来る鉄道、JRの東海のアクセス、接続が悪いんですね。昔は、国鉄時代でしたけど三島から甲

府までの急行があったんですけど、今そんなのは全然なくて・・・。関西方面との接続というのは結構良くなっているんですけど、逆に神奈川県方面からアクセスが悪くなっているんです。そういう話はよくお客さんから聞くんですけど・・・。

[知事]

そうですね。急行・・・、それはJR東海がやるかどうかね。

[参加者]

よろしいですか。ちょっとしたことなんですけども、県を何地区かのエリアに分けて観光地があると思うんですね。例えばそのエリアを県のほうの何か観光のエリアというふうに指定をして、例えばその中の、まあ国立公園みたいな形で電柱の色は茶色く塗るとか、ガードレールの色は何か統一した色にするとかというように、例えばこの写真を見ると温泉街の白い普通のガードレール、これまあ普通なんですけど、景観的に見ると何か工夫があってもいいのかなというのがあるので・・・。

[知事]

まあ余りよくはないやね。

[参加者]

観光地のそういうものについては何かそういう形で・・・。県道とかそういう所も、お客様を迎える時に何かしていただいたほうが・・・。

[知事]

観光地は木の間伐材を使ったものなんかが一番いいんですけどね、高いけど。できるだけそうするようにしようとしているんだけども、ちょっとお金が掛かって、すぐにはいかないんだ、あれね。

[参加者]

お客様からちょっと言われたんで、あと何かのぼりが多いというのも・・・。

[知事]

のぼり・・・。

[参加者]

パチンコ屋みたいな・・・。

[知事]

のぼりは確かに多いですね。産廃処分場反対なんていうのぼりがねえ、あれはあれでしょうがないけどね。のぼりもやっぱり古くなると汚いよね。

[参加者]

観光ののぼりじゃいいけどな、反対なんていうのぼりはうまくないよな。

[参加者]

やっぱり長野県からのお客様で山梨に入ったとたんにのぼりが異様に立っていると。

[知事]

余りよくないですよ、のぼりというのはね、景観的にはね。見てくれは良くないよ。それはおっしゃるとおりです。

どうぞ。

[参加者]

山梨県をもっとPRしていただいて、山梨県はどういう所があるのかという興味を抱いた中で下部温泉が出てくるように、知事さんにももっとコマーシャルとか、あとメディアにもいっぱい出ていただいて、山梨県をたくさん露出していただけたら嬉しいなと思います。下部温泉のペットボトルを持ち歩いていただくとか・・・是非よろしくお願いします。

[知事]

あの水はどこで採取しているか知らないけど、ペットボトルは有名ですな。

[参加者]

今は2箇所あります。ミネラルウォーター発祥の地はここですから。

[知事]

帝国ホテルが使っているというのはそれですか。

[参加者]

昔ね、まだこういうミネラルウォーターがない頃、ここ下部は戦前からあったんです。そして銀座辺りでみんなそれを使っていたんです。日本エビアン水、エビアン水と言えばフランスの有名な、ここのは日本エビアン水と言われたんです、昔は。ここがミネラルウォーターの発祥の地です。

[知事]

ところで話は変わりますが、下部温泉の神社というのは、昔よくその神社には松葉杖が奉納されているとあったけど、今はどうなっているんですか。

[参加者]

戦前はドイツ医療といったから温泉療養というのを宣伝していたんです。戦後アメリカ医療になったら、完全に治ってから行けど。バイ菌が入るじゃないかってお医者さんに言われるからお客さんも減っているんです。完全に治ってからでなければだめってわけです。

昔は戸板で連れてきて、そのまま戸板で入れたという記録まであるんです。

[知事]

だけどもものすごくそういう切り傷、すり傷、打ち身の効能が良かったらしいですね。

[参加者]

私も骨折は6、7回しています。だけどほとんど、医者にやって治療しても後の治療は温泉で治しています。

[知事]

その物語が大事なんですよね。ものすごい効能があって、だから神社には治った人が奉納していく松葉杖がたくさんあるとか、そういう物語があって、その物語をうんと宣伝すると来るんですがね。

[参加者]

今、知事さんから話が出ましたが、この熊野神社は非常に由緒ある神社です。普通だったら県の重要文化財になったんですが、そうするにはまず修理をしると。

[知事]

これは古いんですか、できたのは。

[参加者]

それは天正。

[知事]

天正・・・、それは古いですね。

[参加者]

穴山梅雪が再建をした建物が現在そのままあるというのは、地方ではここしかありません。安土桃山建築。

[知事]

それはしかしすごいですね。

[参加者]

ただ何とかしたいんですけど。

[知事]

それはそうだね、やっぱりね。

[参加者]

県のほうで手当してくれるとありがたいなというのはありますね。

[知事]

神社というのは、一応神仏、宗教だからね、金出しにくいじゃんね。

[参加者]

県の指定にしてくれれば、その辺が・・・。

[知事]

今、町の指定にはなっているんですか。

[参加者]

町の指定になっています。

[参加者]

これは国の重要文化財をやっている方たちに見ていただいて・・・。

[知事]

そうですか。それはもったいないですね。

[参加者]

これは下部温泉の、今知事さんがおっしゃったシンボルなんです。非常に歴史的価値もあるんです。是非そういう面でも県のほうでご配慮いただければありがたいです。

[参加者]

先ほどの効能ということ言えば、ここの組合員は、温泉入浴指導員という資格を取ってしまして、そういう組合員、取った指導員が各旅館にいますので、共通してその下部温泉の入り方ですとか、昔からそのぬるい湯と熱い浴槽が下部温泉の旅館にはあったんですけど、どういう形でこれを入れていけば身体にいいとか、そういうものの指導というのをしていこうよと。療養温泉ということでも昔から認めていただいていたので、その辺をもう一度見直す・・・。

[知事]

それで復活するという手があるんですね。それで有名になれば大変なことですよ。いかがですか。その後ろの方。

[参加者]

先ほど熊野社が天正の安土桃山の時代と言っていましたが、それより250年ぐらい前に久遠寺が開山しているんですね。その時に日蓮さんを房総の女性の信者が訪ねてくるん

ですね。その信者は下部の湯治場へ寄ったついでに来ましたと言ったら、日蓮さんは「ついでとは何事だ」と言って追い返したということを手紙に書いて自分の知人に出して、それが日蓮遺文に残っているんですよ。ということは、湯治場は天正の穴山梅雪の時代よりもっと古い・・・。

[知事]

鎌倉時代ですね。

[参加者]

今から約750年前には確実に湯治場が存在していたということ、文献上からも実証できるんですね。さらにここ、岩盤からの、割れ目からの温泉ですね。掘削して掘った温泉でない。自然流出ですね。そうすると実はもっと古い時代にあったことが想定される。そうすると熊野神社の最初の創建がいつだっけということになってくるんですが、下部温泉郷って非常に古い歴史を持っていて、そこには、温泉地の魅力づくりに役立つ一つの物語、話題性があるわけですよ。

[知事]

そういう物語というのは大事ですよ。ここは何かちょっと変わったお祭りとか、そういうのはないんですか。

[参加者]

ありますよ。

[知事]

どういうお祭りをやるんですか。

[参加者]

松葉杖供養祭・・・。

[知事]

松葉杖供養。

[参加者]

1年に1度、それはお焚き上げをして供養する。

[知事]

焚くんですか、奉納されたものをばあっと焚き上げる。なるほどね。じゃあ古いのは残っていないんですね。みんな焚いちゃうわけですね。

[参加者]

それでもこの頃はもうアルミの松葉杖で、まあギブスとか、そういうものが・・・。

[参加者]

我々が子どもの頃ね、たくさんあってね、そしてギブスだのがあって気持ち悪くてね、それを少年団で片付けるってわけだ。それを昔は片付けるのが嫌でね。その後、当時の区長さんがもう40年ぐらい前に、どうだ、燃してまとめて供養祭をやるじゃないかということで、それから供養祭が始まってずっと続いています。

[知事]

そうですね。いや、それは面白いですよ。

[参加者]

よろしいですか。よくお客さんとかに言われるんですが、下部温泉には光ケーブルが全然来ていない状態じゃないですか。整備というか、そういう光ケーブルをこちらのほうへ持ってきてもらいたいというのが、この辺の地域の人の要望です。お客さんもどうしてもインターネットをしたいとかという人が多いので・・・。

[知事]

私は田舎ほどブロードバンドをやるべきだと思うんですね。しかし2010年だったかな、全国ブロードバンド100%普及率というふうに方針になって、あっちこっちやっているはずですが、ここはまだできてないですか。

[参加者]

ここはADSLもかなり最近の話なんで、もう本当に外れなので・・・。

[知事]

まあ光ファイバーが引ければいいけど。

[参加者]

あと今一番言われるのはワンセグですか。ワンセグが入らないとか・・・。

[知事]

ワンセグというやつは、あれは携帯電話の基地局があればできるんでしょう。

[参加者]

だからそれがありませんよ。

[知事]

だけでも携帯電話、通じるでしょう。

〔参加者〕

それはまた別で・・・。身延町では身延山の上にあるだけなので、この辺はもう・・・。

〔知事〕

ワンセグっていうのは不可能かな。なるほどね。

〔熊谷 身延町観光課長〕

町内ブロードバンドが引かれてない地域が何箇所かありまして・・・。

〔知事〕

それは2010年だったかな、それまでにはやりますからね。

〔司会者〕

それでは予定しておりました時間を大分経過をいたしておりますので、最後に知事から今日の感想を含めましてあいさつをお願いします。

〔知事〕

大変貴重なお話を色々聞かせてもらいまして、まあ皆様方の悩みとか思い、それから夢、希望、そんなものがよく分かったような気がいたします。誠に切実なお話だったというふうに思います。

まあ最初の話に戻るんですけども、やっぱりこの地域の皆さんがまとまってやればできないことは基本的にはないわけであって、県や町もそうだと思いますけれども応援をしたい気持ちはもちろん持っているわけです。ただまとまらないとなかなかこれやりにくいものですから、今ちょうどそういうことで具体的に皆さんのグループで検討が始まったわけですから、我々もそれに参加しているわけですし、そういう中で是非コンセンサスを得ていきたいと。我々もそれをバックアップしていくことにしたいと思っておりますので、どうか一つ皆さんがまとまって一緒になってがんばるということでやっていただきたいというふうに思います。我々も努力します。

どうも今日はありがとうございました。

〔司会者〕

それでは以上をもちまして『ひざづめ談議』を閉じさせていただきます。